

三田市立学校のあり方に関する基本方針（案）に対する 市民意見の募集結果と意見に対する市の考え方について

1 実施概要及び結果

- (1) 実施期間 5月10日（木）～6月11日（月）
- (2) 閲覧方法
 - ア 教育総務課、市民情報ひろば（市役所本庁舎1階）での閲覧
 - イ 各市民センター等での閲覧（市内10カ所）
 - ウ 各市立小中学校での閲覧（市内28カ所）
 - エ 市ホームページでの閲覧
 - オ その他、各市立小中学校PTAに基本方針案を配布
- (3) 意見の提出方法
住所、氏名、電話番号を記入して、郵送、ファクス、eメール等で提出
様式は自由
- (4) 意見件数 41件（15名）

2 意見の概要と市の考え方

【方針（案）を修正するもの】…0件

【提案として、今後の取組の参考とするもの】…41件

3 意見の内訳

区 分	賛成	賛成 (慎重)	反対 (慎重)	反対	計
意見の内訳	5	3	1	6※	15名

※反対6名のうち1名は中学校については賛成

【提案として、今後の取組の参考とするもの】

No	整理番号	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
Ⅱ 適正配置を考える上での基準および具体的な方策			
1 望ましい学校規模			
1	10-①	<p>基本方針の策定趣旨、背景、三田市の現状等はよく理解できたが、基準及び具体的な方策については、全く理解できない。中学校9～18学級（各学年3～6学級）とした根拠が全く説明されていない。</p> <p>中学校9～18学級として判断した理由が説得力に乏しく、誰もが考えることであり、新鮮味がなく常識の範疇から出ておらず、その必要性が全く伝わってこない。</p>	<p>中学校では、「免許外指導が解消される規模」、「ある程度の部活動が確保できる規模」を主な理由として、三田市の学校の状況や将来の推計生徒数等を勘案して、「9～18学級」を「望ましい学校規模」としています。</p> <p>小規模校には「きめ細やかな指導がしやすい」等のメリットもありますが、「子どもが多様な個性と触れ合う機会が少なくなる」等のデメリットもあります。</p> <p>教職員の意識調査結果では「どちらかと言えば望ましくない」と「望ましくない」を合わせた「望ましくない」の割合が57.3%で、小規模化について「望ましくない」と考える教員が多い状況です。</p> <p>ある程度の学校規模であれば、異なる学年の子どもたちが共に活動する縦割り活動やグループ学習等の工夫により、小規模校のメリットを取り入れたカリキュラムの編成が可能となります。また、学習面では加配教諭を配置し、少人数で授業を行うなど、大・中規模の学校でも、小規模のメリットも活かした授業を行っています。</p> <p>しかし、小規模校では、「部活動」や「生徒同士の多様な触れ合いによる社会性、協調性の育成」、「学校行事の活性化」、「クラス替え」など、一定規模の学校のメリットを取り入れることが難しい面があります。</p>
2	10-②	<p>小規模のメリットに対する見解がない。教職員の意識調査で小規模化について、「望ましい」、「どちらかと言えば望ましい」の割合が26.5%と大変高い率であるのに、それに対する反論がされていない。</p>	<p>ご意見のとおり、子ども時代は、人間の基礎を形成する大事な時期であり、個性の強い子どもがいる場合、小規模集団では、集団全体が強く影響を受けることが多くあります。しかし、ある程度の規模の学校であれば、多様な考え方が容認されやすく、その結果として1人1人の個性が発揮しやすい環境になると言われています。</p> <p>公立学校として「公教育の公平性」は大変重要な要素と考えており、今後も「個性」を伸ばす教育に取り組んでまいります。</p>
3	11-②	<p>基本方針では、小規模校のプラス面があまり意識されていない。「私」を認めてもらい、ちゃんと見守ってもらう経験は、子どもの人間形成にとって大切。子ども時代は、人間の基礎を形成する大事な時期である。</p> <p>「規模」は荒っぽく言えば「数合わせ」であり、そこに子どもの顔は見えない。考えるべきは、目の前にいる子どもにあった接し方・教え方ではないか。どの学校に通っても（どの先生に教わっても）同じになることを目指すのは間違い。</p> <p>一番育てたいのは「個性」であり、個性のない学校（先生）ではそれは育たない。少人数のデメリットについても書かれているが、私の地区の幼稚園・小学校・中学校に対して、どのように評価しているのか。</p>	<p>ご意見のとおり、子ども時代は、人間の基礎を形成する大事な時期であり、個性の強い子どもがいる場合、小規模集団では、集団全体が強く影響を受けることが多くあります。しかし、ある程度の規模の学校であれば、多様な考え方が容認されやすく、その結果として1人1人の個性が発揮しやすい環境になると言われています。</p> <p>公立学校として「公教育の公平性」は大変重要な要素と考えており、今後も「個性」を伸ばす教育に取り組んでまいります。</p>

No	整理番号	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
2 望ましい学校規模を確保するための具体的な方策			
4	1-①	<p>統廃合は必ず必要。公教育であれば、教職員の数、学校徴収金や校外活動時のバス代の差、部活動の数等、住んでいる地域により多くの差があるのは問題。せめて市内で統一を図りたい。PTA連合会にすべてのPTAが加入していないのも問題である。以上の点から、基本方針に示されている学校規模に合わせて統廃合すべき。</p> <p>校区を撤廃することを考えても良いのではないか。同じ市に住む子ども達であり、学校の差を少しでも減らすことが必要と考える。</p>	<p>「公教育としての公平性」は、大変重要な要素と考えており、いただいたご意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。</p> <p>校区の撤廃については、学校選択制にもつながり、学校間格差がさらに拡大することが懸念されることから、現在のところ考えていません。</p>
5	10-③	<p>具体的な方策として、学校再編にしか言及しておらず、あまりに安直ではないか。</p>	<p>三田市立学校園のあり方審議会（以下「審議会」と表記。）では、「望ましい学校規模」を確保するための具体的な方策として、「校区外就学基準の見直し(隣接する学校に就学を認める方法)」や「通学区域の見直し(校区変更)」についても検討されました。</p> <p>しかし、これらは本市においては、あまり有効とは言えず、学校再編が最も有効と考えられるとの答申を得たところであり、これらを踏まえて基本方針としてお示ししているところです。</p>
6	10-⑨	<p>他市の動向にとらわれない三田市独自の適正規模・適正配置を標榜（教育行政の柱）してはどうか。</p> <p>三田市においては、その地域に児童生徒がいなくなるまで、たとえ一人であっても、地域の活性化に配慮して統廃合はしない。</p>	<p>子どもにとってより良い学校環境を第一に考え、ある程度の規模の学校に就学できる条件や環境を整えることが大切であると考えています。</p>
7	12-①	<p>上野台中は少子化により1学年1クラスになってしまい、部活動の数がどんどんなくなり、これから中学校に入学する子も「やりたい部活がない・・・」と悩まれている。</p> <p>部活動を通して大切な学びのある時期に、希望する部活に入れないのは子どもにとって良い環境とは言えないし、中学校生活への魅力もなくなる。</p> <p>友が丘・杉ヶ丘の子どもたちが上野台中に通えるようにすると2クラスになり、少しは先生の数が増えて部活も確保できるのではないか。</p> <p>環境のせいで子どもの希望や夢をつぶすのはかわいそう。</p>	<p>多くの方が中学校の部活動について懸念されており、基本方針案にも、中学校の望ましい学校規模を判断した理由の1つとして、「部活動において、ある程度の部活数・部員・顧問数が確保できる。」ことを挙げています。</p> <p>免許外指導、部活動等の課題が大きく、早急な対応を必要とする中学校の再編からまず協議する予定としています。</p> <p>基本方針について市の考え方を説明しご理解いただく中で、対象となる保護者、地域の皆さまに、秋以降、適正な規模を実現するための具体的な学校再編案についてお示し、保護者、地域の皆さまと協議を重ねてまいりたいと考えています。</p>
8	15-③	<p>中学校に関しては、部活動などの現状から子どもにとってデメリットが多く、適正な学校規模が必要と感じる。</p>	

No	整理番号	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
3 具体的な方策を実施する際に留意すべきこと			
（１）児童生徒の通学負担に関すること			
9	1-②	望ましい学校規模にしていくためにはスクールバスの導入が不可欠。これにより、統廃合できる学校の数が大幅に変わる。	<p>基本方針案では、通学時間は、現在の通学状況を参考に、学校再編により、児童生徒に過重な負担とならないよう、おおむね1時間を超えないように配慮するとともに、児童生徒の発達段階を考慮して、出来るだけ通学時間の短縮を図ることとしています。</p> <p>また、学校再編により、校区が広がることが想定されることから、通学手段については、路線バスの活用やスクールバスの導入を検討し、今後も通学支援を継続していくこととしています。</p>
10	7-②	<p>上野台中校区よりさらに大きくするなら、少なくとも三輪小や松が丘小も視野に入れねばならない。校区が広がると通学の時間が長くなるため、通学手段も考えなければならない。</p> <p>一部、神姫バスを利用することも可能であるが、下校バスダイヤが合わないことから神姫バスを通学手段とするには不十分であることから、市でスクールバスを用意すべきである。</p> <p>通学時間は児童の負担を減らすため、30分程度を限度とし、その範囲で学区を定め、新しく学校を作るのなら作るべきである。</p>	
11	10-④	児童生徒の通学負担は「おおむね1時間を超えない」根拠が説明されていない。夏の炎天下に通学時間1時間が低学年の健康面で是認されるか疑問である。	
12	14-③	ある程度の通学時間の増加は仕方ないが、交通費等の費用が今より増えることが絶対ないようにしていただきたい。	

No	整理 番号	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
(2) 学校と地域との関係に関すること			
13	4-②	<p>ITの活用や流通網の整備等により、働き方が多様化され、「医療」や「買い物」の困難さについても、ハードルが下がっていくものと考えられ、都心部に近い三田市の農村部（今回議論されている小規模校地域）は極めて魅力的な場所になる可能性がある。</p> <p>その時に、農村部に学校がなければ、特に子育て世代で三田市への移住を希望する人が少なくなる懸念がある。三田市の財政難については一市民として危機感を持つが、三田市の抱える問題を解決するためには人口増が不可欠であり、そのための施策を考慮したのか。</p>	<p>農村部の活性化については、市としても、様々な施策を実施し取り組んでいますが、少子高齢化の流れの中で、本市においても、今後、更に、年少人口が長期的に減少すると予想されます。</p> <p>特に農村部の学校の児童生徒数の減少は加速度的に進行し、教育活動への影響が懸念されていることから、子どもにとってより良い教育環境を第一に考え、どこに居住しても、ある程度の規模の学校に就学できる条件や学習環境を整えることが大切だと考えます。</p> <p>特に小学校は、地域コミュニティの活動を展開する場となっていますが、再編後もより広い多様な地域との関わりや、新たな交流などにより、これまで培ってきたように、学校と地域の関わりを築き、学ぶ機会を作っていくことは、大変重要であると考えています。</p> <p>学校は未来を担う子どもたちの教育施設であることを大前提として、三田の教育環境としての学校の現状、そしてこれからを、保護者や地域の皆さまにおいても、地域の課題として協議していただきたいと考えています。</p>
14	4-④	<p>厚生労働省発表によると、「特に、都市部の市民農園の需要に対し供給が追いついていない状況」にある。この改善のためには、「田畑」の管理をどうするのが課題だが、小規模校を統廃合すると、農村部がますます子育てしづらい地域になり、過疎化を助長する。</p> <p>児童のみならず、市民・国民が「国と郷土を愛する心」を育むためには農村部の活性化が不可欠で、学校の統廃合はそれに逆行しているのではないか。</p>	<p>農村部の活性化については、市としても、様々な施策を実施し取り組んでいますが、少子高齢化の流れの中で、本市においても、今後、更に、年少人口が長期的に減少すると予想されます。</p> <p>特に農村部の学校の児童生徒数の減少は加速度的に進行し、教育活動への影響が懸念されていることから、子どもにとってより良い教育環境を第一に考え、どこに居住しても、ある程度の規模の学校に就学できる条件や学習環境を整えることが大切だと考えます。</p> <p>特に小学校は、地域コミュニティの活動を展開する場となっていますが、再編後もより広い多様な地域との関わりや、新たな交流などにより、これまで培ってきたように、学校と地域の関わりを築き、学ぶ機会を作っていくことは、大変重要であると考えています。</p> <p>学校は未来を担う子どもたちの教育施設であることを大前提として、三田の教育環境としての学校の現状、そしてこれからを、保護者や地域の皆さまにおいても、地域の課題として協議していただきたいと考えています。</p>
15	4-⑦	<p>私自身市外のニュータウンから三田市の農村部に移住し、農村部の良い所が極めて鮮明に見えている。少子高齢化の流れの中で、物心ともに豊かな生活を送るための有効な解決策の一つは農村部での生活だと考える。</p> <p>農村部の生活を市民に伝播することこそ、三田市の抱える問題の解決、少子高齢化社会での生活の質を高める最善の有効策と考えており、小規模校を統廃合するのではなく、どのようにすれば農村部の児童生徒が増やせるかという議論をしてほしい（三田市における起業の奨励、農村部における生活の充実化、空き家の活用等）。</p> <p>公立学校でも特色を出せば、児童数の増加につながるという事例もある。学校の活性化は人口の増加に大きく寄与する可能性があることから、三田市ならではの特色ある学校を目指してほしい。</p>	<p>農村部の活性化については、市としても、様々な施策を実施し取り組んでいますが、少子高齢化の流れの中で、本市においても、今後、更に、年少人口が長期的に減少すると予想されます。</p> <p>特に農村部の学校の児童生徒数の減少は加速度的に進行し、教育活動への影響が懸念されていることから、子どもにとってより良い教育環境を第一に考え、どこに居住しても、ある程度の規模の学校に就学できる条件や学習環境を整えることが大切だと考えます。</p> <p>特に小学校は、地域コミュニティの活動を展開する場となっていますが、再編後もより広い多様な地域との関わりや、新たな交流などにより、これまで培ってきたように、学校と地域の関わりを築き、学ぶ機会を作っていくことは、大変重要であると考えています。</p> <p>学校は未来を担う子どもたちの教育施設であることを大前提として、三田の教育環境としての学校の現状、そしてこれからを、保護者や地域の皆さまにおいても、地域の課題として協議していただきたいと考えています。</p>
16	6-①	<p>学校は様々な人々が集い、関わり合う「地域の核」であり、老人会が中心となった恒例行事では、児童園児の笑顔が溢れており、また、地域に伝わる伝統文化を総合学習で学んでいる。</p> <p>統廃合がすすむと、このような風景がなくなってしまうのではと、懸念している。学校は教育を行うだけの場ではない。地域の声も十分にふまえた上ですすむことを願う。</p>	<p>農村部の活性化については、市としても、様々な施策を実施し取り組んでいますが、少子高齢化の流れの中で、本市においても、今後、更に、年少人口が長期的に減少すると予想されます。</p> <p>特に農村部の学校の児童生徒数の減少は加速度的に進行し、教育活動への影響が懸念されていることから、子どもにとってより良い教育環境を第一に考え、どこに居住しても、ある程度の規模の学校に就学できる条件や学習環境を整えることが大切だと考えます。</p> <p>特に小学校は、地域コミュニティの活動を展開する場となっていますが、再編後もより広い多様な地域との関わりや、新たな交流などにより、これまで培ってきたように、学校と地域の関わりを築き、学ぶ機会を作っていくことは、大変重要であると考えています。</p> <p>学校は未来を担う子どもたちの教育施設であることを大前提として、三田の教育環境としての学校の現状、そしてこれからを、保護者や地域の皆さまにおいても、地域の課題として協議していただきたいと考えています。</p>

No	整理 番号	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
17	10-⑤	<p>「学校は地域のコミュニティの核になっている場合が多い」のではなく、100%地域コミュニティの核となっており、認識にずれがある。</p> <p>地域に学校が存在することによる、地域の活性化、子どもたちからもらうエネルギーは計り知れないほど大きい。地域に学校がなくなることによるマイナス要素をカバーできる施策はない。</p>	(前ページに同じ)
18	11-①	<p>学校では、各種の会合・行事等が学校で行われており「地域の中心・心の拠り所」となっている。</p> <p>昨年度、長坂中は創立70周年、本庄小は117回目の卒業式だった。長い歴史があり、学校に対する愛着や思い入れは強い。このことも考慮いただきたい。</p>	
19	13-①	<p>志手原小の統廃合は反対。地域に根付いた小学校を統合するのは、児童の安全面からも支障をきたす。</p> <p>学校のあり方だけでなく、地域の暮らしに関わることだけにもっと慎重に議論して頂きたい。統廃合の方針を見直してほしい。</p>	
20	14-②	<p>小規模校を卒業した子どもたちが大人になった時に、育った地域で子育てしたいと思える方針、統合したとしても、ニュータウンの方々と過疎地の方々が上手く融合した「三田市式」といえる方針を考えてほしい。</p>	
21	15-②	<p>統廃合による農村地域の過疎化への影響を三田市はどう考えているのか。学校は地域コミュニティの核であり、子どもにとっても貴重な財産である。過疎化対策と小学校の存続は分けて考えられないこと。</p> <p>統廃合による更なる過疎化の影響について、三田市としての見解を聞きたい。小規模校の保護者として、子どもたちの保護者の顔が見える環境の下、小学校生活を送ることが望ましい。</p>	
(3) 学校跡地の有効活用に関すること			
22	10-⑥	<p>「学校跡地」の有効活用は次元が違い、ここでの検討は不要。</p>	<p>学校跡地及び施設の有効活用については、まちづくりの視点から、地域の皆さまと十分協議しながら、市として総合的に検討していきます。</p>

No	整理番号	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
(4) 当面对応すること			
23	4-①	<p>我々を取り巻く環境はめまぐるしいスピードで変化しており、特にITを活用した「遠隔授業」等が試験的に実施されている。</p> <p>今後、教育現場においてこのような取り組みが実現すると考えると、今回示された「小規模校のデメリット」が近い将来デメリットにならない可能性が高い。今回の検討において、そのような「環境変化/将来予測」は考慮されたのか。</p>	<p>これからの「変化の激しい時代を生き抜く力を育む」ため、ICT機器等の活用能力や情報モラルを育てることは大変重要です。</p> <p>一方、ICT機器は万能ではなく、さまざまな情報機器に囲まれた現在の子どもの状況から、審議会においても、「ある程度の人数の子ども達実際に肌を触れ合い、時にはぶつかりながら学ぶことが大事である。」、「顔を合わせて話をすればよいことが、全部ICTに置き換えられてしまうと、気が付かないうちに人間関係が希薄化する。」等のご意見もありました。</p> <p>学校再編を検討するためには一定の期間が必要となります。基本方針案では、当面对応することとして、小規模校におけるデメリットを少しでも緩和するために、指導方法やICTの活用等を含むカリキュラムの工夫、他校との交流の実施、合同部活動への補助、複数免許を持つ教員の配置等、可能な限りの対策を行っていくこととしています。</p>
24	10-⑦	基本方針案に示す「当面对応すること」については、大賛成です。	基本方針案に示す「当面对応すること」に対する賛同意見として承ります。
4 特色ある教育について			
25	7-①	<p>上野台中学校区内の小学校をまとめても将来的に児童数が増加する気配はない。小学校を再築してまでの統合はすべきではない。</p> <p>三田市内での学区の再編をし、上野台中校区を超えて大きく統合し、小中一貫の学校を作るべきではないか。</p> <p>場所を城山公園としてはどうか。体育館も老朽化しており、立地もそう悪くない。</p>	<p>いただいたご意見を参考に「小中一貫型小学校・中学校（併設型）」の導入も視野に入れて、子どもにとって望ましい教育環境について、保護者、地域の皆さまと協議を重ねていきます。</p>
26	9-①	<p>フラワータウンには現在小学校が4つ、中学校が2つあり、全てが減少傾向にあることから、統廃合による効果は大きい。旧校区に比べると、地域の理解も得られやすいと考える。</p> <p>狭間中と狭間小とは隣接しており、フラワータウンの中心に位置し徒歩圏内であることから、併設型など、子ども・保護者・地域にとっていい形をこれを機会に作ってほしい。フラワータウン全体では、中学校1つ、小学校2～3つが理想ではないか。</p>	

No	整理 番号	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
Ⅲ保護者・地域との協議について			
1 基本的な考え方			
27	2-②	保護者や地域住民の声をよく聞いて、早急に統廃合を進めることがないようにしてほしい。	学校再編にあたっては、保護者、地域の皆さまのご意見を聞きながら、子どもたちにとって望ましい教育環境という視点を第一に考え、協議を重ねていきます。
28	3-①	小学校教員をしている。今年度学校予算もかなり削減され三田市の財政状況も大変厳しいことは理解しているが、学校の適正規模・適正配置については、地域の声をよく聞き、行政主導ではなく、子どもたちの事を第一に考え進められたい。	
29	5-①	学校統廃合については、行政主導ではなく、子どもにとって何が一番良いのか考え、地域の声を大切に進められたい。	
30	8-①	三田市の中学校教師をしている。三田市において生徒数の減少に伴い小規模化が進む中、部活動の減少や免許外指導の増加など様々な課題が出てきている。 子ども同士がお互いに学び合い高め合える、望ましい教育環境を整えることが急務である。ただ、学校は地域のコミュニティの核になっていることから、行政主導ではなく、地域の声を大切にしながら、小中学校の適正規模・適正配置を進めてほしい。	
31	10-⑧	保護者・地域との協議については、丁寧な説明責任をされると感じた。	
資料編 7小規模校・大規模校のメリット・デメリット			
32	4-⑤	内閣府発表「平成 26 年度子ども・若者白書（概要版）」によると「我が国は諸外国に比べ、自己を肯定的に捉えている者の割合が低い」と指摘されている。その原因の一つとして「児童期の教育」にあると考える。 それを克服するためには、これまでとは違った価値観で物事を判断する必要がある。今回提示された「メリット・デメリット」は何らかの調査に裏付けられているのか。 例えば、小規模校を卒業した方がこれらのデメリットにより社会生活を送るにあたって何らかの影響を受けたのか、大規模校のメリットは本当に享受されたのか、という調査結果を参考にしたのか。 メリット・デメリットのバランスで物事を決めるのであれば、それぞれの「確からしさ（本当にメリットなのか、デメリットなのか）」に客観性を持たせることが極めて重要ではないか。	基本方針に記載している「メリット・デメリット」は、国の資料 ^{※1} や「三田市の教育に関するアンケート調査」（平成 27 年実施）における、教育関係者および保護者を含む市民等の意見も参考に、審議会で議論された結果であり、本審議会からの答申を尊重し、基本方針案を策定したものです。 ※1 文部科学省が主催した「小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会」（国立教育政策研究所、教育学を専門とする大学教授、和歌山県等の地方自治体等からのヒヤリングを参考に、平成 20.7～21.3 に計 12 回開催し取りまとめたもの）において議論された「学校規模および適正配置」についての意見。

No	整理 番号	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
資料編 8三田市の教育に関するアンケート調査結果の概要			
33	4-⑥	「三田市の教育に関するアンケート」を2,000人に配布し、1,091人より回答とあったが、回答者の属性はどのようなになっているか。 仮に、回答者のほとんどが、大規模校の保護者であったり、幼・小・中の子育て中でない方であれば、本質問に対する回答者として適当ではないと考える。	アンケートは、基本方針案12ページに示す小学校区分で、大規模校（4校）439人、望ましい規模校（4校）299人、小規模校（12校）348人の計1,091人から回答を得ています。従って同一規模の学校区に偏ったものではありません。 また、回答者は就学前の子どもの保護者327人、小学生の保護者374人、中学生の保護者180人、高校生の保護者183人、その他（社会人等）の保護者23人で、回答者として適当であると考えます。 「少子化に伴う学校園の小規模化」について「望ましくない、または、どちらかといえば望ましくない」と回答された内訳は、全体で62.1%で、うち大規模校（4校）58.1%、望ましい規模校（4校）67.2%、小規模校（12校）62.9%という結果となっています。 (※それぞれの区分に分類できない回答があり、合計は1,091人には一致しません。)
34	15-①	市民アンケートの2,000人の内訳を開示してほしい。小規模校と大規模校の保護者・卒業生で回答結果は同じなのか。	
その他			
35	2-①	今後少子化により児童数が減少することは理解するが、統廃合の事が強く、これからの学校や教育の姿も示してほしい。 統廃合よりも人的・物的支援の充実をしてほしい。	本市がめざす教育の方向性については、「第2期三田市教育振興基本計画」にお示ししており、本計画に基づき人的・物的支援も含めて、可能な限り、子どもたちの教育環境の充実に努めてまいります。
36	4-③	人の流動の激しい都心部では、教育基本法に目標として掲げられている「郷土愛」を育てることは現実的に難しい。今回の検討資料で、三田市においてもニュータウンの児童数が増加し、農村部の児童数は減少していることが示されている。 このような状況で学校を統廃合することは教育基本法と合致すると考えられるのか。	三田市の各校においては、農村部、ニュータウンの別なく「総合的な学習の時間」等を活用して、地域学習を工夫して実施しております。 「特産物等を調べ、PR活動等をする場合、複数の学校（地域）が集まり適正規模になれば、自分の地元への愛着や地元意識が更に高まる。」との意見もあり、今後もふるさと学習などを通して、「郷土愛」を育てる学習にしっかりと取り組んでいきます。
37	10-⑩	財政的視点からの議論は必要ないのか。	この基本方針案は、子どもたちの望ましい教育環境として、どうあるべきかを第一に優先し、市としての考え方をお示したものであり、実施に当たっては、財政的な視点も考慮していく必要があると考えています。
38	10-⑪	当事者である中学生の意見はいつかの時点で聞くべきである。中学生の知識、考え方、意見はウェイトが大きいと思う。	中学生からの意見集約については、考えておりません。

No	整理番号	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
39	11-③	<p>農村部の学校が小規模になったのは、市の施策の結果という一面があり（もちろん時代や社会の変化もあるが）、こうなることは当初からわかっていたこと。市の施策の尻拭いをさせられると考えるとスッキリしない。</p> <p>「教育条件（子どもにとっては学習条件）」とは、教室の広さ・先生の人数など、当事者（先生や子どもたち）の努力ではどうしようもないもの。「教育環境（学習環境）」とは、教室の雰囲気・先生の指導など、当事者の工夫や努力、地域の力の活用などでより良くなるものとする。</p> <p>その論でいくと、今回の基本方針で示されているのは「教育条件」であり、子どもたちにとってより大きいのは「環境」である。「学校がどうなってしまうのか」などという不安を持たせるのではなく、今日この日を楽しく充実した一日にしてやりたい。</p>	<p>児童生徒にとってより良い教育環境を提供することを最重点の視点として、学校再編について保護者、地域の皆さまとともに検討してまいります。</p>
40	13-②	<p>審議会について、官報や市のホームページの記載はあるが、市民が知らないことばかり。審議会の会議こそ市民にわかるようにして、一緒に考えないといけない。</p>	<p>審議会の開催日は事前に市ホームページに掲載し、資料や会議録等についても公開をしています。8月中旬以降、各中学校区で、この基本方針についての説明会も予定しており、今後も、保護者、地域の皆さまにご理解いただけるよう、説明に努めてまいります。</p>
41	14-①	<p>全7回のあり方審議会の会議録を読んだが、あの話し合いの結果としては、小規模校を統廃合する意図が強すぎる。教育委員会がまとめた基本方針案は、小規模校をベースとした「適正規模」ありきにすり替わっている。</p>	<p>昨年7月に、審議会に対して、子どもたちにとってより良い教育環境づくりに向けて、三田市立学校園のあり方基本方針の策定するため、「①適正規模・適正配置に関する事項」、「②その他、学校園のあり方に関する事項」について諮問しました。</p> <p>その諮問に対して、7回の審議を経て、小中学校の適正規模・適正配置についての考え方を、審議会として答申にまとめていただきました。</p> <p>市として、この答申を尊重し基本方針案を策定しているところです。</p>